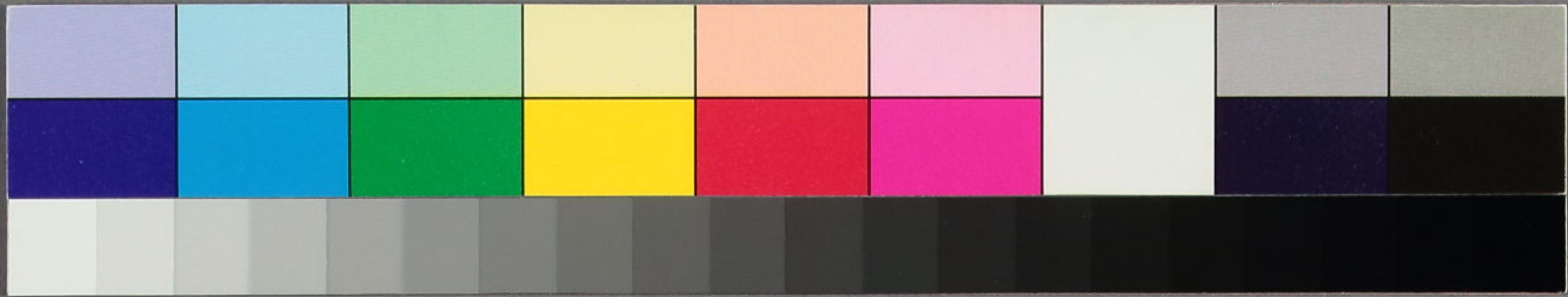


犬子集
一





又津路を考ふる人ありて

わがふしをいふものありて

しるしをいふものありて

比叟の法山田乃神友よき本

田も又山城玉山崎み宗猶

とくべ道のぬきゆりうりし

つとむるものありて

いしつとむるものありて

ふとむるものありて

あるものありて

ゆりしものありて

ゆりしものありて



よやあしく云掛るもさぞあましく
ゆかりのあまきとて今は清代屋
しまりおまてよおとせしりま
お安金あしく民乃うまのこも
ごころおつちるまてさるあ又後
およあつとて後れどたこと家
飛揚もふらんあてかりお建
まらひとせらるよおあんのみ
おろもいふとていかなよあ
お人のまじよまうせくおまを
そのめ別ち武千の太統波葉
あしあがよ入らるのぞらて
後のおむ付のむね直志くま

えつとを才けく去わ別て我老
乃後見よ入用控乃銅とくく
そ治めい一葉とあ一先と太子
葉と号ゆの作は免永八年如
月らりいこころあまらよあ
あつらあまのるぞりて回十
晴月事よ記ゆぬあつと太子葉
あつた統波とあひくあらあ
丸数りの数二千五百三十付の
あつら千のむは銀の城よじたあ
あよとらる切なりあらて今約

まろくろ河はさるやうな年体言
わら金の年れうらも甲辰
子もさるわらうらうのたかき益
むろくろ餅のこころうら親筆
家のおまじいころ日影のたか
きもさるうられむ月かま珠
きいよんいごれまの骨堅
敷のよん親といふ年始の成
後の子やまのせうやもほれ
うらまじいころうら天下も
うらまじいころうら天下も

歳極ま子れ旁ありきん

米依とえ旁ありれありれ一足

あのももあそめてころうら也ころのうら

日分やまのあつてころ甲辰年改冒

子に書きたるころうらうら一足

同は書きたるころうらうらうらうら

仰書きたるころうらうらうらうら

のころうらうらうらうらうらうら

あめあつてあそめてころうらうら

年めてころうらうらうらうらうら

寛永七年午の年なりうら

寛永也のまじりうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら

鳳凰も此よのどき死多し年
み親よとてのらおのうとれ
花梅や年花然て花はるの
大少くの葉乃わいと梅干是

とくろえとるれ年よ

波わづらああの一ひひや水

年まははあめりあお乳るま

とくや梅は推来とるは水

年よ花といはも花はあは

とくも梅は梅散あじとら

申乃とら

き年ととてやとられ物散

年やととらるは梅はとら

とくはとらとら

わととらとらとらとら年

年ととら年とらとらとら

とととととととととととと

とととととととととととと

年とととととととととととと

とととととととととととと

とととととととととととと

とととととととととととと

とととととととととととと

とととととととととととと

有葉 付七種 何葉立

七種を名士の名にあらえ
法よりつる書や様あるはの理

或人云ふとせしむるは七種乃
後ありてしむるは

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

はつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

あつらんかたはあつらんが
あつらんかたはあつらんが

有葉の書

あはれなる用事ありてはなほ

子目

去る日はあつてははるの

松松は勝つてははるの

はるは勝つてははるの

ひさしは勝つてははるの

松とてははるのひさし

糸のひははるのひさし

うさぎははるのひさし

山松のひははるのひさし

多分ははるのひさし

男松ははるのひさし

ふひははるのひさし

梅

残梅ははるのひさし

浅き梅ははるのひさし

ふははるのひさし

ぬははるのひさし

ね神のひははるのひさし

ねくははるのひさし

残梅ははるのひさし

残梅ははるのひさし

ねははるのひさし

ねははるのひさし

香の清きよき花梅のぬ梅はほほ
お花を幼なり梅のさるる花
教の中よ言や花梅のさるる花
物地よまよる梅花のさるる花
言よおけく知とらぬ花の

お花よとらぬ花よ

お花やうらんれうらんお花の

花梅のさるる花

白梅よさるる花よ金梅の

花梅のさるる花よ花のさるる花

お花のさるる花のさるる花

花梅のさるる花

花梅のさるる花よ花のさるる花

お花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

木の枝よさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

花梅のさるる花のさるる花

雲山くまをわつて花を空
百をりて

雪も梅も枝もさかたけを
生身好くおぼや法のいふ

梅坪よさういふさかたけ
梅やせんさういふさかたけ

さういふさかたけの
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

あつたてのうらな
あつたてのうらな

春風よたのて

とく息の狭楊の音はなる雲を巻

残雪

いさよ花をまきぞと流る雪は各
か来りあややくゆさかた鳥
山のふもとに雪をまきて雪はあま
若くは雪や日影のまじりて
雪のつらき雪はこれなる雪の音
雪は雪とていふまじりのはるかに

春氷

あはれ流るるてあはれあはれ

かざりや鳥のさ

氷とくろあはれいと流るる水は
あはれよとくろやまされあはれ
とまよふまじりていふまじりの
流るる水と踏むるるれひわらふ
うらむる水やあはれまじりて
まよひていふまじりてあはれ

春雨

あはれいふまじりてあはれ
あはれいふまじりてあはれ
あはれいふまじりてあはれ

本目

まろやうとじまのめらうを葉
吹風やうすまよらめの葉葉
あらまらうとじまのめらうの葉

母上をめぐりて

まろやうとじまのめらうの葉

柳

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

まろやうとじまのめらうの葉

枝はさし地あはれ柳の河

まぬの柳の河のあがらるる体浦

舞力るたの風れららの柳の河

海にやうあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

まぬやうしちの柳の河

うまぬの柳の河

あまらるる柳の河

海にやうあまらるる柳の河

浪のあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

柳のあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

あまらるる柳の河

柳のあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

あまらるる柳の河

柳のあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

あまらるる柳の河

柳のあまらるる柳の河

さく花のあまらるる柳の河

油屋

ふるさとの夜ゆくひんがし
おれ乃飛揚る意ぢあつる處
ふらふらのまの光先くつるの
ひくもわらひどもふてつるの
飛らも圓あわりそかろるの
かりごのや海まよふ華の光る
百婚を雁ぞよふと田あふ那境
めあももをふはわそや油屋親
まの年いふふふふ油屋親
飛る乃ふまのたふとわが感
舟の御押あつる油屋親
あせぬらつらつらつらつらつ
おまのあつらつらつらつらつ
やまとしておれつらつらつらつ

非子

あつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつ
あつらつらつらつらつらつ

蝶

せんごつらつらつらつらつ

ちり花と飛ぶらうてもあまらぐ
 りる花もさそひのまは百年め
 まのいこてふれ舞乃志どめかると
 花乃あはここの舞やあまふい
 こひとむむのまはらうぞらう
 ちんの下れ舞やなほ飛こふ
 物むいあまの舞とらうここのま
 舞の後いふとよ舞のここのま

狗獨集巻之二

五下

格

ちかりおとし格あうう花のあ
 花入のいりうくやまはれど死産
 あらういふとそ花乃あつた
 例るぬ人とたのい
 くらよわうう八あちりう
 はも今八せんさ乃格う舞の
 戎身あくなほ格乃よせ
 つこ乃ゆうと格あく
 よせはの格あまんよの格格
 格

花屋と云ふよ

花屋の町をへん花のうら

雨よあめ花を親ゆ不孝な

涙産めく

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん

花屋の町をへん花のうら

遊覧よ

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

花屋の町をへん花のうら

約よまよと花はさよひの心ふあき
 不とあふ今一花らうはう那若
 花とあふくまあまや後の親と
 増ふぬのあらうまあむらあき
 けさびもさうらん物や花の影日
 花のあやあまふり風をな
 まあさうあまあふまふり
 そはれやあまあまふりあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき

わりうまよまあふりあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき
 おやあふりあまあふりあき
 花の影とあまあふりあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき

花はさよひの心ふあき

花はさよひの心ふあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき
 花はさよひの心ふあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき

花はさよひの心ふあき

花はさよひの心ふあき
 花よまよと花はさよひの心ふあき

ちあふおね又ううをさうら
しげのづうんわひまはれい梅

ぬる乃思あふまはれい梅

花のほむむやねとさうらあつ三

二重のまひげん梅のまはれ梅

あふららる梅乃むさうり梅

三途川越へまはれやうむ梅の

さあまのまはれ乃ちあふ梅の

ふひう梅を本流よたさく梅

水野うてまはれ二重梅又

梅梅とのまはれ梅

二重梅乃花や合へ八重梅梅

梅よまはれ梅乃ちあふ梅の

風ようく梅やわはれ梅梅の

梅梅梅

花乃つ後あふまはれ梅の

あふらる人や梅あふまはれ梅

花のまはれ梅乃ちあふ梅

柳やさくまはれ乃ちあふ梅

ちあふらる梅乃ちあふ梅の

わされれや梅とさく梅乃

あふらる梅乃ちあふ梅乃

梅やまはれ梅乃ちあふ梅

花をまはれ梅乃ちあふ梅

いふしをきりて火極の死乃授け
 死極ももとも増えぬ極うおの
 ときくハオ造作らぬさくく々々
 おおひかりの道ぞあやうれ大極の
 ちまやう人かひひおひかへる後
 多よあおしよたぬてや道極の
 ころ人をきつはあやたさう極
 虎のおん死よ道つをいぬ極
 風極はぬいあふくくく日
 去年お極やあう家極
 きく死らくくあうさくく極
 嘆むいさの果極さうた極
 山極のさくくあうさくく極
 ちりて又風死とならさくく極
 いやくんさのやうれさくく極
 掃地もぬあやうく家極
 死よあのまらやがらのいぬ極
 火極乃死てやうつたれさくく極
 死だも後とさくく極
 ひさくも理とさくく極
 死もよ研てさくく極
 死たさくくや極
 系もあうさくく極
 死のいひさくく極

山がやまの峰をたふさく六の
鯉の淵よはみよ上さくく潮の流

磯のゆく

梅畑浦の菅屋の花をよみ

紫花

梅よよはれはるれ家さる

花よよはれはるれの本流よよ益

ちよよはるれはるれはるれはるれ

ひよよはるれはるれはるれはるれ

よよはるれはるれはるれはるれ

咲畑てあや西国やれ花は

辛夷

とよよはるれはるれはるれはるれ

咲畑をたふさくはるれはるれ

海棠

人のめはるれ海棠の神ありはるれ

海棠れはるれはるれはるれはるれ

あつたやよよはるれはるれはるれ

海棠をよよはるれはるれはるれ

海棠やよよはるれはるれはるれ

こころを
小糸花

黄うらぐ儂めん石まづめらふ

風よ枝とさうし落さう小糸花休る

葉む 日摘

らあがむ連いあえとのほろけさ葉

あゆみいりたをえさうららちりき

さうらるせん福葉の葉つは葉

はゆりて先葉葉の葉あるる葉

郷踏

しりたのえや小豆のちらつて

花よりやぎをれあよつてのりき

うらららららららららららららら

うらららららららららららららら

らら人やんをらららららららら

おとごんのほろけさ

うららら

織をよるるらららららららら

葉

成教葉の葉

あやまらららららららららら

しりたのえや小豆のちらつて

あやまらららららららららら

葉

おいあひよはまゝいせよまゝいせ
 ともろの藤もやがれんてらう一正
 地ておやびくめの輪もび体甫
 去風は腕もやまらうとひは親を
 のえつらうとひとらとまよふ面後英
 かのえつてまもまこころ藤の比成を
 さとらうとひとすおむむおの安刺
 わさうふるもやまどのとらひを澄
 とまの形はる白ひうれとひを軽

友

惟松乃夢うたまく友うたう
 友はらうと志むるも寸白松をり

友あぶのかあしゆめあさひが
 くらくとまらりてまもや友づらあ産

友人親友とてあらまよ

千年とりく七まわり松乃友
 松ようろ友の志まひや物生海日

大友

約喜乃如也友の友見うかひ
 松ぞり志むるも友乃か藤 友友
 ねくうらうめや友のららぶ友
 友はがのむら葉乃あはれか友
 さうはあしとまらる友よさうら友感一

ねんを極み者の花乃る海蔵
 者教のうらやうなねあり
 永日とあじりるあそびり者
 者あぶよふみのねのあけ
 者あぶよふみのねのあけ
 ねん乃倒るるあそび
 ねん乃倒るるあそび
 ねん乃倒るるあそび

款冬

ねん乃倒るるあそび
 ねん乃倒るるあそび
 ねん乃倒るるあそび

山吹はさくらさくら
 秋のあそび
 秋のあそび

永日

永日とあじりるあそび
 永日とあじりるあそび
 永日とあじりるあそび

永日て感^{あは}れおぼせし乃^{なほ}た^たぬ成^{なり}て
陰^{かげ}みかき^かる免^{まぬ}の身^みは^はる日^ひも^も世^よに

そ^その^の世^よめ^めと^とく

永^{とこ}日^ひも^も法^ほ法^ほ一^{いっ}見^{けん}の^のう^うと^とし^しか^か親^{おや}を
迎^{むか}わ^わりの^のび^ひ河^から^らま^まれ^れ日^ひは^はか^かる^る
曲^{まが}あ^あら^らが^がお^おの^の日^ひの^の海^{うみ}宮^{みや}外^{そと}を^をね

鐘^{かね}

よ^よら^らの^のひ^ひて^て鳴^なる^る鐘^{かね}乃^{なほ}た^たあ^あら^ら
ち^ちと^とり^りあ^あく^くや^や鐘^{かね}の^のあ^あわ^わを^を

苗^{なへ}代^{しろ}を^をせ^せじ^じつ^つ鐘^{かね}乃^{なほ}た^たく^くさ^さび^び未^ま後^ご

和^わみ^みは^は竹^{たけ}笛^{ふエ}を^をし^して^て鐘^{かね}乃^{なほ}た^たく^くさ^さび^び

常^{とこ}と^と鐘^{かね}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^くわ^わを^を世^よに^に

知^ちり^りあ^あの^の海^{うみ}乃^{なほ}た^たく^く鳴^なる^る鐘^{かね}乃^{なほ}た^たあ^あら^ら

好^{この}む^むわ^わく^く田^い代^{しろ}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^く感^{かん}親^{おや}

常^{とこ}と^と男^{おとこ}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^く海^{うみ}乃^{なほ}た^たあ^あら^ら

う^うら^らま^まれ^れ生^{なま}湯^ゆ乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^く池^{いけ}乃^{なほ}た^たあ^あら^ら

病^{びやう}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^くの^のま^ませ^せく^くの^のあ^あら^らわ^わく^くま^ま鐘^{かね}乃^{なほ}た^た

海^{うみ}中^{なかつ}て^て鐘^{かね}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^くせ^せん^んご^ごう^うり^りを^をね

よ^よの^のこ^こら^らう^う
喚^{こゑ}子^こ乃^{なほ}た^た

衆^{しゆ}乃^{なほ}た^たあ^あら^らわ^わく^くの^のま^ませ^せん^んよ^よか^から^らを^をね

ま^まの^のり^りを^をね
ま^まの^のり^りを^をね

之浦の公のう柳もあつた竹の
物喜れあまの草や菊の葉も
後うーあく

さるんりの公のう浦の公の
るうううううう

白柳もあつた柳もあつた
天のうううう

菊の葉もあつた菊の葉もあつた

狗猫集題目錄

夏秋

文家 新一 新樹

杜若 一八

菊葉 有楓

葵 柳

紫陽花 橘

竹 螢

麻子 萩

石竹 百合草

鳳仙花 狭路花

夕月 梅雨

余苑 三

牡丹

卯電

毬花

梅子

改 付交出

梅子

貴友

菖蒲

夕月

石菖	桃実	夏草	夕影	蓮	夏月	白魚	石菖
青毒	梨花	夏草	麻	氷室	短水	扇	雑交
楊梅	櫃子	美人草	凡付	秋室	致	納涼	

狗搦集卷之三

夏

夏家

ぬきえきよしとらぬぬえく
毛籠よ鶴もくやなう魚地
いしふふふふふのふふふ

新樹

ふしうやまもくもくもく
夏山のふふふふふ
あふふふふふふふふ
木乃よせふふふふふ

山崎のまのりつからあまこころ味
しつとあまもやうろうろあま之徳え
なまうやまよみゆぢあのかん
まうまてごうろくさやあま
まの道のやういさうはくあま

余花

嵐ら卯月の花のうたれ氷

杜若

観おせ思ふあまをうたつて
あまあまのうたや杜若
あまあまのうたや杜若
あまあまのうたや杜若
あまあまのうたや杜若

一八

まらしてえちや一八のむのよ
あまあまのうたや杜若

牡丹

あまあまのうたや杜若
あまあまのうたや杜若

月出の美仲よりえんよ母のそよ葉
とてしゆくさるるれあつて葉の影
はさよふ今事りや母のそよ葉
牡丹はよ人重政のそよ葉
猶つる牡丹乃影をなす子葉
塙めく

まのそよ葉牡丹のそよ葉

牡丹葉

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

牡丹

牡丹のそよ葉は海より

牡丹のそよ葉は海より

夢

夢うゝと実なるをさうさうから夢
おろきうゝ心夢のうゝあやうな
花のよんはてみうゝ夢うゝあや

柳

柳紫を吹くひあそく月が夜

謎

落くふの道はまらぬ花は夢
救ふくはくもまらぬ花は夢

紫陽草

おめでたふあわらさひ花の

楼

からむ心ひさしあひひ
本流よ人の多きとて

見る人も楊氏乃ちとくわ
門あはれをちむ乃ちうり
多敷くりあはれ花の白ひ
えさるゝあはれむわか
あやとあやひとあや

柳

門を出てさうも榊よりむ感極
まら目よじりて笑や榊も何
苑の事や誰そふよか介は木交友

時多

名乗せだはや楊かこくは

建仁ちあへ

言のりよあやわをさぶみ親
折乃よあやまはらるり何多
時よあや身の事やかたは
かきうをいふよさうあ何多

あんでいしはあまうあみ親
はあは下はあまうほいし

あちよまうりて

秘意どうしあやまら部ら産

くさくさくさあへ

よゆわらさくは名の産公何

あちあへ

かきぞんよまをいかにき次回

時多のまうさうわくよ

う突ぬくはよあのぬ何多何
あれかかろうのさうせもわねくはさ何
務ら川しはあられさう無産何
あさまうさうぞやさく川部ら何

螢火をひらけ海流は池乃有光
螢火は海乃中の炎う那者
物あはく螢火乃志あり家
飛螢二正よあまろ海も下
あり火のお推しに螢うあ
んく神と水光のまハ螢式
螢火をきくまを物あ
無火も螢をひらけ海流は
海流はあまろ火ハかろ
水ひらけあまろ飛螢う
回るまもあまろ火も飛螢
火をさるん人さるん螢
う海はたわて

橋の燈ゆるきやとあまろ
あまろの海乃流は飛螢
の海乃の燈ゆるきやとあまろ
螢火て接子とせよとんれ

蚊 付文書

蚊をくろくまろくろくまろの
蚊はあまろあまろあまろ
蚊の蚊と蚊乃蚊あまろ
蚊もあまろあまろあまろ
蚊をくろくまろくろくまろ

そとよりあつたあつたのちりやあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

磨子

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

靴

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

撫子

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

石竹

あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

百合草

床をもちりよとらるる花籠はなかごに
まあるのぬいねむいしりれむ
鬼百合おにゆりよわがく腹はらの花籠はなかごに
見しやと雅みやびをみゆをいりれむ
百合ゆりのたどりのとがのこ飛とぶ雲うみ籠かご
のよかぬ鬼百合おにゆりあまももも
さうぬるやんはくしう博多はくしう百合ゆり籠かご

常夏とこげ

ゆりあらしをせよとてなれむむか
あつめおせよとてあの花はなひらけ

風仙かぜせん

おわこいらつあつあつせんむ

鉄線てつせん

磁石しやくせきよ極ごくてまもも鉄線てつせんむ
鉄線てつせんく鉄てつ火か乃のむのこらひせん

苗圃なほぼ

くさこまの平ひら地ぢ乃のまもも
平ひら地ぢして人をわめれ鉄てつ火か乃のむ
妙たぎよまもも苗圃なほぼ乃のむのこらひせん
まももゆらゆらゆらゆらゆらゆら
あまももあまももあまももあまもも

みづきとてはなほのこころもなほさるるや當浦安利

みづき

みづきとて大海をわたりてはなほ
みづきとて山をのぼりてはなほ
みづきとて當浦のりてはなほ
みづきとて六月のわまたはなほ
みづきとて海舟をかこみてはなほ
みづきとてお花のさかりてはなほ
みづきとてはなほを流るる如きはなほ
なちのよきかこいよ

みづきとてはなほのこころもなほさるるや

梅雨

梅の雨とてはなほのこころもなほさるるや
當浦のりてはなほのこころもなほさるるや
山乃神やなほのこころもなほさるるや

早苗

早苗の雨とてはなほのこころもなほさるるや
是乃山乃苗や中乃苗もなほさるるや
ぬきひのこころもなほさるるや
勝乃山乃苗もなほさるるや

花乃見よせむのまじり梅は春
梅の香よ白ひもあめぞくすむ

楊柳

よのころふぶきのまじりかた

枇杷

麻のそむくもやらぬ
おしほむらうあめや
さくらつたやのうど

梨花

十のころのやまぐさ
風もあめもくらくれ

梅

花のよらむも
あめもあつた

夏草

しきもあつた
あめもあつた
あめもあつた
あめもあつた

後者もよ

宗へゆはらごころもきつぬ
花と美のさびきもみけのたれ

幾人ぞ

あいつは花のゆりあふま
花くのうたもあふま

夕影

夕影と暮りゆくはるの夕
あふれは美夕のあふれ

麻

わさび紙がなまのせごが地

丸 付あふれ 何ふ角豆

りごも海も道や丸の車切

地よ今とをやとむらうと丸

わさび二九乃十八ふ角豆

地よまごひけらよありそも本丸地

まらゆはま葉や丸のうらひ

地美やあふれあふれそり番の

後者あふれあふれあふれ

歩むのひめつ物やこころの
目よまや物のよられぬ
田のちよふらふらふら
珠あやもや吉とくは
名はもは日なやしらる

道

ちよれんことか白く道
あきすらふらふ池の
花の名もよく深
さきそえよ此の道
遊音興外よ

素らる人まあし道乃露

氷室

月夜涼しひらや
氷室山あつた
山はらるや氷室の氷

後

引まると長刀
月夜と涼しく
意重くも菊
ひく繩よ

山嶺は祇園寺や一丸の山寺
弓持八幡山のもいごふ
祇園寺八幡寺の物成義

夏月

わさびの月かみ丸業の寺
あふのやをわらうの月信

短歌

あつたあをいよあまの
神よりれかきあのみよる感
ゆふそ

あつたあひしまりひせわ

歌

あつたあひしまりひせわ
あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

あつたあひしまりひせわ

短歌

網原

ましとせうく僕やあひら
 海さか海さか海さか海さか
 打あよまそとれいめあひら
 風あひらの名や了子あひら
 香うらあひらあひらあひら
 汗はあひらあひらあひら
 江戸あひらあひらあひら

刀さあひらあひらのあひら
 親あひらのあひらあひら
 海さあひらあひらあひら
 わあひらのあひらあひら
 ああひらあひらあひら

御殿

一ああひらあひらのあひら
 紅あひらあひら
 海さあひらあひらあひら

雑文

加あひらあひらのあひら
 海さあひらあひらあひら
 さあひらあひらあひら

